魚沼「新之助」生育情報

第６号

令和４年７月29日
魚沼農業普及指導センター
電話：025-792-1309
FAX　：025-792-9006

葉色が淡い！
後期栄養対策として追加穂肥の活用も！

○生育の概要（調査日７月28日）【草丈：やや短、茎数：やや多、葉色：やや淡】

	田植日	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉数（葉）	葉色（SPAD）
気象感応ほ	5/20	74(93%)	553(120%)	13.3(+0.3)	33.1(-1.7)
ＪＡ展示ほ	5/23	73(91%)	450(98%)	13.7(+0.7)	34.0(-0.8)
２地区平均	5/21	74(92%)	502(109%)	13.5(+0.5)	33.6(-1.3)
指標値	－	80	460	13.0	34.8

・調査ほの葉色は１回目穂肥により前回調査に比べ上昇あるいは維持している穂場もあるが、淡いほ場もみられるなどほ場間差がある。
・今後も高温が予想されており、葉色低下による後期栄養不足が懸念される。

【今後の管理のポイント】

１　２回目穂肥は必ず施用

・分施体系は後期栄養の維持するため、出穂期12～10日前に確実に施用する。
・穂肥量は窒素成分で１kg/10aを施用のめやすとするが、栄養凋落が予想される場合は１回当たり 1.5 kgまでをめやすに施用量を調節する。

２　栄養凋落が予想される場合には、３回目穂肥（追加穂肥）を検討

・出穂期 10 日前以降の穂肥は、玄米タンパク質含有率を高め、食味を低下させるので原則施用しない。
・ただし、異常高温時等で栄養凋落が予想される場合には、下表を参考に最低限の栄養状態を確保するため、出穂期10日前以降の穂肥施用も検討する。

３回目穂肥（追加穂肥）の判断

使用肥料	判断時期	判断基準	最大施用窒素量
化学肥料	出穂期３日前（かつ２回目穂肥から１週間後）	葉色(SPAD値)３４未満	１ｋｇ/10a
有機100%肥料			２ｋｇ10a

３　こまめな水管理で稲体の活力維持

・出穂期にかけて最も水を必要とするため、飽水管理を徹底する。その後も根の活力維持のため、出穂期25日後まで継続する。
・異常高温、フェーン時には速やかに湛水し、品質低下を防止する。

４　病害虫防除の徹底

・ほ場を確認し、葉いもちが確認された場合は直ちに防除する。
・穂いもちは、水面施用剤等を用いた予防防除を必ず実施する
・斑点米の発生を防止するため、水田内外の雑草管理と適期薬剤防除を徹底する。

農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな水分と塩分の補給や休憩が大切です。